

# 波佐ネット通信

No. 150 2020.4.1

## 市指定文化財新たに5件指定

古文書	金城たたら関係文書	35点
考古資料	奥の原古墳群出土品	2点
考古資料	重富廃寺跡出土品	33点
考古資料	千年比丘1号墳出土品	一括
史跡	千年比丘1号墳	
指定日		令和2年3月19日付

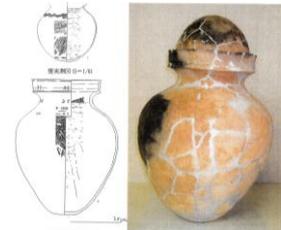
### 【金城たたら関係文書】

佐竹家文書、古和家文書の6,500点の古文書の中から、石見金城地域のたたら歴史を知る上で代表的な文書11点及び絵図24点。資料群の価値を代表する古文書として、年代的に最も古いもの、たたら操業の具体的なあり方をよく示すもの、たたら鉄穴のようすを視覚的に示す絵図類などを選び指定文化財としたものである。たたらを通じた周辺地域の交流や地域の歴史を知る基本資料としても貴重である。



### 【奥の原古墳群出土品】

古墳時代前期の奥の原古墳群(弥栄町)から出土した大型の壺棺である。壺棺本体は、高さ52cm、最大幅39.5cmと口縁を打ち欠いた、中型甕高さ21.5cm、最大幅22.5cm。山間部の古墳の始まりと小規模古墳の様相を知る上で重要である。



### 【重富廃寺跡出土品】

白鳳時代(7世紀後半)から奈良時代(8世紀)頃の古代寺院である重富廃寺跡(旭町)から出土した古代瓦である。丸瓦7点、平瓦15点、軒丸瓦(外区に鋸歯文)9点、鷗尾の飾り1点である。石見地域の古代寺院で、石見地域の瓦生産技術のつながりを知る上で重要である。



### 【千年比丘1号墳出土品】

古墳時代前期の土器片と砥石一括である。土器片は、鼓型器台17点、甕類6点、不明29点が出土している。砥石は最大長34.5cm、幅20cmの大型品である。鼓型器台は、古墳時代前期前半(3世紀末)である。これらは埋葬時の墓上祭祀に伴うもので山間部の古墳の始まりと小規模古墳の埋葬儀式的様相を知る上で重要である。



### 【千年比丘1号墳】

金城町長田に立地する南北約300mの丘陵北側に所在する。直径15m、高さ2m、3遺体が埋葬された円墳であり、石見地方で最古の古墳である。山間部の古墳の始まりと小規模古墳の様相を知る上で重要である。

